

10 評価と進行管理

(1) 評価指標の設定

本計画の進捗と達成状況を定量的に評価するため、本計画で目指すまちづくりの方針に基づく指標と目標値を以下のとおり設定します。

安心・快適に生活できるコンパクトなまちづくり

居住を緩やかに誘導する区域を定め、人口減少の中にあっても、一定のエリアにおいて人口密度を維持することにより、地域コミュニティや生活サービス施設が継続的に確保され、子供から高齢者まですべての人々が安心して快適に生活できるコンパクトな中心市街地の形成

指標	基準値 (平成 27 年度)	目標値 (令和 20 年度)
居住誘導区域内の人口密度	32.5人/ha	30.0人/ha

※令和22年度の推計値では、26.3人/haと人口密度は年々減少することが想定されるため、現在の地域コミュニティや生活サービス施設が継続的に確保できるように人口密度の維持に努めるもの

魅力・賑わい・活力を感じる中心市街地の形成

都市機能を誘導する区域を定め、医療・商業等の都市機能の立地を中心拠点に誘導・維持することにより、これらの各種サービスを効率的に提供し、魅力・賑わい・活力を感じる中心市街地の形成

指標	基準値 (令和4年度)	目標値 (令和20年度)
都市機能誘導区域内の誘導施設数	3施設	5施設

指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和20年度)
暮らしやすいと思う市民の割合	75.6%	85.0%

※まちづくり市民意向調査において、「登米市は暮らしやすいまちですか？」との設問に対して「暮らしやすい」、「まあまあ暮らしやすい」と回答した人の割合

市全体が持続的に発展するネットワークづくり

中心市街地を活性化することで、地域拠点と中心拠点との往来が増加し、拠点間の公共交通を維持・充実することにより、各地域拠点や地域コミュニティとのつながりが広がり、市全体として持続的に発展するまちづくり

指標	基準値 (令和元年度※)	目標値 (令和20年度)
市民バスの年間利用者数	32.4万人	維持

※ 新型コロナウイルス流行前の令和元年度の実績

(2) 進行管理

上位計画である「登米市都市計画マスタープラン」の見直しとの整合を図りつつ、概ね5年周期で施策の実施状況などについて評価指標等を用いて評価・検証を行います。

また、計画の立案（Plan）施策・事業の実施（Do）評価・検証（Check）改善・見直し（Action）のマネジメントサイクルによる適正な進行管理を行うとともに、必要に応じて本計画の見直しを行います。

■PDCA サイクルによる進行管理

